

令和7年(2025年)9月8日(月)
(公財)広島平和文化センター国際部
国際市民交流課 担当:安永
電話:242-8879 内線:5803

「燈籠流し“Paper Lanterns”」 上映会&トークセッションを開催します

～ 被爆米兵を調査し続けた被爆者、^{もりしげあき}森重昭氏のドキュメンタリー映画 ～

被爆80周年を迎え、被爆者の平均年齢が86歳を超えた今、より一層市民の平和意識の醸成を図るとともに、平和を願う「ヒロシマの心」を次の世代につなげていくことを目的に、自身も被爆しながらも約半世紀にわたり被爆米兵の足跡を調査・研究し続け、米兵遺族と交流を重ねてきた森重昭氏のドキュメンタリー映画「燈籠流し“Paper Lanterns”」を上映会を開催します。上映後には、森重昭夫妻とプロデューサーをお招きしたトークセッションを開催し、撮影秘話等をお話いただきます。

◆日時 2025年9月22日(月) 18:00～19:30 (開場は17:30)

◆場所 広島平和記念資料館 東館地下1階 メモリアルホール(定員312人)

◆内容 ①「燈籠流し“Paper Lanterns”」上映 (18:00～19:00)

② 映画関係者によるトークセッション (19:00～19:30)

登壇者 森重昭氏、佳代子氏

重昭氏は8歳のとき、爆心地から2.5kmの自宅近くの橋の上で被爆。妻・佳代子氏に支えられ、会社員として働く傍ら、被爆米兵の調査・研究を40年以上続けてきた。

クリアー齊藤信子氏「燈籠流し“Paper Lanterns”」プロデューサー

進行 香川剛廣 (公財)広島平和文化センター理事長

◆映画概要 制作年:2016年 監督:バリー・フレッシュ 上映時間:60分

あらすじ:1945年8月6日、8歳だった森重昭氏は自宅近くの橋の上で被爆。その後、社会人として働く傍ら、当時の被爆状況について調査を始めた森氏は、調査を進めていくうち、原爆による多くの犠牲者の中に12人の米兵捕虜がいたことを突き止める。自身も被爆者として傷つき、身内をなくした痛みを抱えてきた森氏は、同様の痛みを抱えているであろう米兵遺族に、12人の最期を伝えたいという一心で、彼らの足跡を辿る研究を続け、遺族と交流を始める。本作では、歴史の闇に消えていた12名の被爆米兵に光をあて、約半世紀にわたり調査・研究を続けた森氏の足跡とケンタッキー州、マサチューセッツ州に住む米兵遺族との「平和の願い」をつなぐ交流を描いている。

◆参考 当該映画は2016年の制作以降、日本やアメリカをはじめ世界各地で上映されており、昨年はジュネーブで開催されたNPT再検討会議準備委員会で国連軍縮研究所(UNIDIR)の主催により上映されました。被爆80周年となる今年にはアメリカ各地で上映されたほか、日本では9月16日の国連大学(UNU)での上映会に続き、広島で上映されます。

『燈籠流し “Paper Lanterns”』 上映会&トークセッション

80年前の8月6日、8歳で被爆した森重昭さん。
80年前の8月6日、広島で被爆した12名の米兵捕虜たち。
知られざる彼らの足跡を約半世紀にわたり調査・研究し、遺族
と交流を重ねた森さんのドキュメンタリー映画を上映します。
上映後には森さんご夫妻とこのドキュメンタリー映画のプロデ
ューサーをお招きしたトークセッションをお楽しみください。

無料 申込不要

18:00 - 19:00

開場 17:30

◆ 『燈籠流し“Paper Lanterns”』 上映
バリー・フレッシュ監督作品

19:00 - 19:30

◆ トークセッション (手話通訳あり)

登壇者

クリアー 齊藤 信子氏
『燈籠流し“Paper Lanterns”』
プロデューサー



森 重昭 氏、森 佳代子 氏

重昭氏は8歳のとき、爆心地から2.5kmの
自宅近くの橋の上で被爆。
妻・佳代子氏に支えられ、会社員として働
く傍ら、被爆米兵の調査・研究を40年以
上行い、米兵遺族との交流を重ねてきた。



進行

香川 剛廣
(公財) 広島平和文化センター理事長

主催・問い合わせ：(公財) 広島平和文化センター国際市民交流課
Tel : 082-242-8879 Fax : 082-242-7452
E-mail: internat@pcf.city.hiroshima.jp



2025.

9.22 月

18:00 - 19:30

広島平和記念資料館
東館地下1階
メモリアルホール

